

序

一 展示と本書について

本書は、袋井市歴史文化館で令和七年（二〇二五）八月一日（金）～九月五日（金）の期間に開催された、「戦後80年ミニ展示 戦争が生活とともに在った時代」（主担当…高塚真之／杉山は使用史料の撮影や翻刻を行なった）のために調べた史料をまとめたものです。

本書の目的は、展示で紹介した史料の内容を、読みやすい形（原文を収録したので、昔の言葉は少し読みにくい、というところはありますが）にまとめることで、市民の皆様に袋井市の歴史資料にアクセスしやすい環境を作ることと、我々袋井市の学芸員にとって後の展示や講座に役立つ史料集を作ること、また、袋井市の史料を紹介し歴史学の専門家の方などに研究に役立てていただくことです。

令和七年度は、「戦後八〇年」、「昭和一〇〇年」というキーワードが先にあり、それに則った企画が求められました。

「戦後八〇年」、「昭和一〇〇年」という言葉につかみどころがない、ということも悩ましい点ではありましたが、その他にも課題が、大きく分けて二つありました。

一つ目は「戦後八〇年」について蓄積がなかったことです。

かつて、袋井市歴史文化館では、平成二十五年（二〇一三）八月十日～八月三十日に、「よみがえる戦争の記憶展」という展示が開催されています。私が入庁する前の展示ですが、実は、その時の展示内容は、現在に継承されているとは言えない状況でした。

まず、展示史料の詳細が分からない。

史料群名が分からないものがある、史料番号は完全に不明、そして、それらの翻刻が存在していませんでした。

そして、展示されていた史料の大部分が分かっていると、更に驚きの事実が判明しました。

袋井市歴史文化館ホームページの『よみがえる戦争の記憶展』を開催します。』のページには「戦後68年を経ても今なお各地に残る戦争の傷跡」(<http://fukuroi-rekishih.com/tenji/2013/07/post-17.html>)とあり、明らかにアジア・太平洋戦争を意識した展示だったとみられるのですが、実は、展示史料は明治～大正期、日露戦争期のものが多かったようなのです。

つまりは、ちよつと見て面白そうな史料を並べた、時代はバラバラのキメラのような展示だったのです。それでも、未公表の史料を翻刻して残してくれていれば良かったのですが、そうしたのも残っていなかったもので、結局、今日に残る成果にはなっていませんでした。

二つ目の課題は史料の状態です。本書の口絵や解説編の写真をご覧いただければ一目瞭然かと思いますが、昭和十年代の史料は状態が極端に悪く、年を追うほどに状態が悪くなっていきます。

実物を展示できる史料は限られています。取り出すだけで怖い、最早繊維が崩壊している史料ばかりです。

しかも、そうした状態の悪い史料というのは、一九四四年東南海地震の関係史料など、袋井にとって重要なものばかりでした。保存のため、後世に史料を伝えるため、史料原本を出すことなく、史料の内容や画像にアクセスできるような環境づくりが求められました。

画像のアーカイブ化には、袋井市社会科補助資料集デジタル版などの試みが力を発揮しています。ただ、袋井市社会科補助資料集デジタル版は、子ども向けという性質上、まとまった量の史料原文の掲載などは難しいです（そんなことを言いつつ、デジタル版は、現時点で内容が大分詳しいものになってしまっておりませんが……）。少なくとも、学芸員の業務を考えると、今後のため、どこかに原文にアクセスできる環境が必要でした。

そこで、史料原本をまとめた史料集を作り、公開することにしました。この史料集を一つの情報源として、袋井市社会科補助資料集デジタル版などに、より分かりやすい形の情報発信をしていく。この史料集を、様々な媒体で展開する袋井市の歴史紹介を支えるものになりたい、と考えています。

二 本書の構成について

本書に収録した史料は、本書史料編二〇一号の昭和十七年（一九四二）十二月十五日『梵鐘、半鐘、并鐘銘文』（西楽寺文書近世四一二四）のみ西楽寺所蔵文書ですが、残りは全て袋井市歴史文化館所蔵文書です。写真のみご紹介している史料や、解説編で「本書に収録せず」としながらも史料原本から引用している史料も、全て袋井市歴史文化館所蔵文書です。

西楽寺文書近世四一二四につきましては、令和七年（二〇二五）六月十五日に西楽寺にうかがい、西楽寺丸山住職様から史料紹介の御許可をいただきました。深く感謝申し上げます。

本書は「第一部 史料編」「第二部 解説編」の二部構成になっています。

「第一部 史料編」には、史料原文を翻刻したものを収録しています。極力史料原文通りの文字組を反映するように翻刻しています。収録順は基本的に編年で、年代順に史料が並んでいます。

このミニ展示は、昭和二十年（一九四五）八月十四日のポツダム宣言受諾、同年九月二日のミズーリ号艦上における降伏文書への調印から八十年、という周年を意識して開催されたものでした。そのため、展示はアジア・太平洋戦争期が中心と決まっていたのですが、展示で使用する史料（本書に収録する史料）は、いつからいつまでのものにするか、という点に頭を悩ませることになりました。

所蔵史料の把握、調査という意味もあり、今回は、袋井市歴史文化館所蔵史料によって展示を作成することが早くから決まりました。このことにより、袋井市歴史文化館所蔵史料の残り方（文献資料の残り方は、必然的に、地域、時期的な偏りがあります）も踏まえ、昭和十六年（一九四一）～昭和二十年（一九四五）を中心とした展示となりました。

内容の方向性として、戦争と地域との関わりを明らかにするために、「生活の中に入り込む戦争」というテーマを設定しました。戦争の影響が、衣・食・住（住は、史料がないので今回あまり触れられませんでした）、生産、その他諸々に、どのように入り込んで、生活を変えていったのか、ということ、ある程度長い期間の中での変化、という視点でとらえることを目標としました。

当然ながら、展示では、調べた全ての史料をご紹介できたわけではありませんが、本書では、展示で中心となった時期を、歴史の流れの中でご紹介するために、昭和三年（一九二八）の済南事件から、昭和三十三年（一九五八）の原水爆禁止袋井地区協議会設置までの史料を収録しました。この区切り方には様々な御意見がおりかと思いますが、史料の残り方による影響をかなり受けた設定なので、その点はご容赦ください。

袋井市歴史文化館所蔵文書の内、今回の展示で中心となったのは、山梨役場文書、久努西村役場文書、袋井町近代役場文書②（なぜか史料群が明治→大正頃の①と昭和期の②に分かれています）、長溝自治会文書（近代）、浅羽自治会文書です。

現在は合併して袋井市になっている村々の、役場の文書です。右に挙げた史料群は、それぞれ、現存している役場文書の中でも量が多く、様々な内容の史料が残されているものです。

そうした史料を収録しているため、本書は、役場の文書を中心とした史料集となっています。この点は、本書の特徴と言えるかと思います。それぞれの史料群は、残り方に偏りがあります。それが歴史資料の特徴です。偏り方にも、史料群の伝来や性格が反映されています。

例えば、袋井町近代役場文書②は、昭和十六年（一九四一）の史料ばかりが残っています。これは、先輩職員に尋ねたところ、袋井が水害に襲われた際に、救出できた史料が、昭和十六年（一九四一）の塊を中心としたものだったことによる、とのことでした。

また、山梨役場文書と久努西村役場文書は、全体的に残りが良いのですが、昭和戦時期のものでは、宗教関係の史料が特によく残っていました。長溝自治会文書（近代）は、昭和戦時期の史料としては最も残りが良く、昭和十二年頃→占領期に西浅羽村や長溝と関わる諸団体が出した文書が、文書綴りの形で、浅羽町史編纂時に付箋を貼られるなどの被害を受けていましたが、ほぼそのまま残っていました。

長溝自治会文書の文書綴りは、可能なら全点ご紹介したかったのですが、量が多すぎるので、翻刻が間に合わず、一部のご紹介となりました。

このように、残っている史料の時期、内容、地域には偏りがあるのですが、本書には、どうしても偏りができてしまった面はあるものの、できる限りまんべんなく収録するように心掛けました。

本書に収録した史料では、個人名は、基本的に、村長、常設委員、各種団体の代表者など、当時公的な立場にあった人のみを収録いたしました。一部の、重要、貴重、あるいは珍しい内容で、その内容が、どうしても個人と不可分な関係にある史料につきましては、公的な立場の人でなくとも、個人名を出しています。具体的には広霊県維新村の史料などです。

個人については、原則として、その人の出生、財産、病氣、死亡などに関わるようなものは収録していません。基本的に、そのような内容の史料はほとんど残っていないのですが、戦時期の重要なキーワードの一つである「貯蓄」（本書解説編「生活」の項で少し触れています）については、個別の例は、悩みましたが、本書への収録を見合わせました。また、出征と帰還に関する史料、特に遺骨の凱旋に関する個別の史料は、地域にとって重要なものだと思うのですが、本書には収録していません。出征に関するものでは、個人名があるものは、他の史料に追記で書かれているものを一点と、セツト関係にある史料などから防諜といった歴史の流れとの関わりが分かる珍しいものを、具体例として載せたものと、計二点収録しました。

病氣ということでは、例外的に、本書には、昭和九年（一九三四）十月付け『御見舞受納帳』（本書九号）という史料を収録しています。この史料には「好治病氣ノ時」とあり、桑原好治という人物が病氣のときの御見舞の一覧です。桑原好治は江尻警察署長などを務めていたので、比較的公的な

位置づけにいる人物ではあるのですが、このときはそういうわけはありません。

桑原好治は、この史料が含まれる桑原晴雄家文書において中心的な人物であり、彼が書いた、あるいは受け取った手紙が、史料群の中核をなしています。主に明治〜大正期の史料が中心なので、本書にはほとんど収録していませんが、日清戦争、日露戦争、そして、明治の長溝や静岡県についての詳細かつ重要な史料となっています。

桑原好治という人物は、袋井市の歴史にとって、重要な意味を持つ人物です。『御見舞受納帳』は、そういう人物の史料であること、そして、その内容が、昭和の贈答儀礼を記録した重要なものであること、「どりこの」という、この時代に特有の要素が含まれていること、といった重要性を持っています。そのため、全体の収録を決めました。

こうした文字史料の他、今回の展示では、千人針や国旗への寄せ書き、戦争柄の端布など、布の史料を数多くご紹介しました。

今回の展示を担当してくれた高塚学芸員と相談し、衣・食・住の「衣」でもある布媒体の史料をまとめた形でご紹介しよう、と決定しました。本書では、布の史料の書き込みの一部は史料編に収録し、全体の姿などは、口絵や解説編に収録しました。

本書「第二部 解説編」は、左の目的により、簡単な収録史料解説として付けたものです。

- ① 本書収録史料は編年順に並んでいるため、分野別には検索がしにくい。おおまかな内容別の索引として、項目別に史料を並べる。
- ② 布の史料など、写真だけのご紹介となるものを収録するため。口絵よりもより詳しい説明を付す。
- ③ 史料を読むときの参考となるよう、史料の内容やそれぞれの関係性を簡単に説明する。
- ④ 史料を読むとき参考となる先行研究を簡単に紹介する。

あくまで参考なので、興味が引かれる史料がありましたら、皆様に調べていただければと思います。

項目につきましては、それこそまんべんなくご紹介する、という方法もあったかと思うのですが、いっそ、私が重要だと思ったものをご紹介することにいたしました。

どのようにしても結局は偏りが出てしまいますので、それならば、いっそ編者の関心によって並べた方が潔いかと思った次第です。

そうは言っても、「第一部 史料編」の方は極力様々な内容のものを収録するようにしましたので、本書は史料集としての役割は果たせるのではないかと思います。

また、解説編には、例えば、金属供出、戦時中の戦勝祈願祭などの祭礼、紀元二六〇〇年など、重要だと考えているものの、史料調査をした感触では、今後更に史料が出て来る可能性が高く、現時点でまとめるのは時期尚早だ、と考え、解説を付けていないテーマもございます。史料編で割と多くそうした内容のものが収録されているのに、解説編では触れられていない、というものは、おおよそ右のような理由によって解説を付けていないものです。今後の課題とも言えます。

このほか、収録史料を読むときに参考になるよう、明治、大正の頃の史料も少しだけ、「参考史料」として史料編の末尾に収録しています。

文献史学の仕事の一つは、先人の残した記録を後世に引き継ぎ、できる限り先の未来まで、その内容を参照できるようにすることです^㉔。先人が残す気がなかった記録が、思わず残ってしまった、というものもありますが（そしてそういう史料がえてして重要な史料だったりするのですが）、今日まで残されてきた史料は、大体が、誰かが誰かに伝えようとした内容を、誰かが残そうとしてくれたから残ったものです。

そうして引き継がれてきた地域の歴史、史料のバトンを後世にも伝えていくことが、一つの使命です。

史料から、歴史から学べることは、実は、史料を読んだ人の数だけあります。その人の関心、経験が違えば、一つの史料から、全く違ったことが学び取れます。それは、史料を書いた人、残した人も予想できないことかもしれません。

本書は、そうした、一点の史料が持つ多くの可能性を、一〇〇年後の誰かに伝える仕事を目指しています。

一応、本書には三四四点の史料が収録されています。理想の四分の一にも満たない収録数ではありますが、三〇〇点もあれば、いくつかはまとめたことが言えるかと思います。読者の皆様が、袋井の昭和史について調べる一助となれば幸いです。

本書は、少なくとも、「戦後九〇年」や「戦後一〇〇年」の機会にも利用できる内容かと思います。次の展示企画が、「戦後九〇年」や「戦後一〇〇年」であることを願っています。

杉山侑暉

㉔ 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会『科学の健全な発展のために―誠実な化学者の心得―』
(<https://www.jsps.go.jp/file/storage/general/j-kousei/data/rnri.pdf> 2025/09/22 14:40) 四二―四三頁などを参考にした。

㉕ 考古学については、袋井市関係の報告書が数多く出されていて、大部分はネット公開されているので、よければ探してみてほしい。